

○部会長 時間の方がまいりましたので、そろそろ第5回「平和のフロンティア部会」を始めさせていただきたいと思えます。

本日は神保委員が所用のため欠席ということになっております。

それでは、今日の進め方ですけれども、中間報告をとりまとめるということで今進んでおります。3月25日に以前御案内のとおり、総理と各フロンティア分科会の代表で部会長と部会長代理が出たのですが、この平和部会については、栗栖さんも私も海外に行っており出られなかったもので、そちらの方について代わりに出ていただいた委員から御報告を後でいただきます。

4月2日、一昨日に第3回のフロンティア分科会が開催されましたので、そちらの議論の概要についても私の方から少し御説明をさせていただきます。その上で、それと重なるのですけれども、中間報告に向けた平和部会の骨子案の説明をさせていただいて、今日は少し時間を取って意見交換をさせていただきたい、皆さんの御意見を伺いたいということでございます。

それでは、まず3月25日に行われました総理とフロンティア分科会委員との意見交換につきまして、代わりに御出席いただいた委員から、適宜かいつまんで御報告ないしは御感想をお願いできますでしょうか。

○委員 それでは、私の方から概要といいますか、大きなところをお話しさせていただきます。別の委員の方からは当日の感想といいますか、コメントを後からいただければと思えます。

私の役回りは報告連絡役でございます。先生がお書きになったメモに沿って忠実に御報告いたしたところです。本日配られております中間報告骨子案の前の段階のバージョンの発言録のようなものをいただきまして、それに基づいて報告いたしました。

主として報告申し上げたのが、2050年の世界像については、このままいくと複数のシナリオが考えられ、いろんなシナリオに対応しなければいけない。一義的に言えるものではないということを強調させていただき、特にこのままいったら日本は衰退し、またガラパゴス化していく。それを避けるためにどうするか、どういう姿が望ましいかということで、ここにも書いてございますような、平和創造への積極的な貢献、ルール・制度、国際公共財等の供給者となるということを平和部会としては大体コンセンサスとして考えておるところを申し上げたところでございます。

個々のどういう政策の議論をしているかということは余り詳しくは申し上げませんが、2025年までの政策のフロンティアということについては一通り説明いたしまして、その中でも例えば集団的自衛権ですとか、そういう政治的にかなり際どいようなことについても大筋で合意はされているところであると申し上げたところであります。

特に東アジアとか太平洋の秩序ということに関しても皆さん御関心が深く、これについても恐らく何らかの形でまとめがあるだろうということを私の方から報告させていただきました。

ほかの部会も含めてそういう報告がございまして、総理の方からは、各部会でいろんな重なりが出てくる部分もあるねという印象についてお話があり、また特に強調されたのが、ルールメイキングということをもっと強く出してほしいということでした。特に平和の部会、繁栄の部会に関しては、ルールメイキングということで日本はやっていくということをもうちよっと詳しくやってくれないだろうかというお話がございました。

ここでもおっしゃったかもしれませんが、スキージャンプで日本が頑張ったらルールを変えられてしまって、その後、日本は不振になってしまったということ。ルールづくりというのはチャンスにもなればピンチにもなり得るのだということでありまして、しっかりやっていかなければいけない。少子高齢化というものが進んでいくのだけれども、ルールメイキングで老大国になってはいけない、ルールメイキングに活路を求めていくべきであるということを強調しておられました。各部会から特に海外から留学生に日本に来てもらうという話が出たのですが、留学生も日本がルールメイキングする国であれば自然と来てくれるようになるのではないかというような話でありまして、かなりこの点については平和部会、繁栄部会中心に検討してほしいというような御依頼といたしますか、御要望がございました。

それともう一つ、総理が強くおっしゃったのは女性の活用ということでございまして、これについては平和部会にという感じではなかったのですけれども、女性の活用というのがフロンティアであろうということでありまして、これについて余りほかの部会で報告がなかったということもありまして考えてほしいというような御依頼があったところでございます。

座長の方からもルールメイキングというのはある種、前の政権の開国とかそういう切り口とも違うので面白いのではないかというコメントがありました。そして、座長の方からは、全部会に共通することとして、2050年については人口動態の変化というのが大きいので、これについては意識しながらやっていただけないかというお話がございました。

幸福部会ではかなり食料危機の懸念をし、自給率を上げるべきではないかという議論をしているということでありまして、TPP推進という話と矛盾するのではないかというような話がございました。TPPについて詳しく平和部会でやっているわけではないのですが、必ずしも矛盾することではないのではないのですかと私はお答えしたわけなのですが、食料安全保障という問題提起が幸福部会の方ではあり、平和部会としてどう考えるかということは調整事項してはあるかなという感じでございます。

全般的に総理は1時間半もいらっちゃって、各委員とのやりとりを熱心におやりになっていて、意気込みが伝わってくる会合であったという感じでございます。

以上でございます。

○部会長 ありがとうございます。

では、次の委員からもお願いします。

○委員 私の方からは、もう簡単に感想レベルでございましてけれども、女性の活用という

ところで野田総理の方から問題提起がなされましたので、全く部会の代表というよりは一女性としてのコメントをさせていただきました。

社会で活用する、社会に参加するということと、やはり子育てということがなかなか相容れないものがありますので、この少子化の中でその辺の対策が必要なのだろうというような意見を述べさせていただきました。

あとは、今、出なかったのですけれども、Well-being という概念が幸福部会から提起されてきて、その辺で疑似家族というような言葉も出てまいりました。これに対して野田総理からはサザエさんのような家族は日本では幻想なのだろうかという問いかけもありまして、それについて石巻で立ち上げた福祉避難所がまさに疑似家族的な集合体になってしまったので、そのことについて御報告を申し上げます。

あとは毎回私が申し上げている点でございますけれども、災害に強い危機管理というところで是非国として何か対策をとり、そしてアジアとの連携を深めていただきたいということで意見を述べさせていただきました。

印象としては、本当に野田総理は長い間、御自身の言葉でしっかりと私たちに必要な重要なところをキーポイントとして押さえてお話しくささいましたので、非常に思いが伝わってくる会でございます。ありがとうございました。

○部会長 どうもお二人、ありがとうございました。改めて本部会長として、貴重な総理との会合を欠席せざるを得なかったことを皆さんにおわびしたいと思います。お二人には大変難しいお仕事を押し付けた形になって恐縮でしたけれども、いろいろお伺いしているところからは非常にうまくいったようですので感謝を申し上げますし、多少とも総理の御関心というようなものを部会の皆さんで共有していただければと思います。

続きまして、4月2日、一昨日に行いましたフロンティア分科会についての御報告を私の方から、10分ほどでさせていただきますと思います。座長、事務局長がいらっしゃるの、違ったり足りなかったりするところがあったら、後で付け加えていただければと思います。

この資料の前提となりますのが、それより前の各部会から出た資料、平和部会、私の方から出したものも含まれております。中身についてはまたごらんいただければと思うのですけれども、一応これまで御紹介があったような共通のフォーマット、2050年の姿というのをイメージして、現状の問題点とどうというのが理想かということと具体的政策ということを書いてあります。

細かい字になるのですけれども、資料6という横組みになっている表があるかと思えます。「バックキャストに基づく各部会の議論の整理」というのが、この4部会からの報告をそうした項目ごとに分類して整理してあるので、具体的な提言等については、これの整理が割とわかりやすいのではないかと思います。

前後逆になってしまったかと思いますが、資料5というのが座長の方でつくっていただいた、もう少し大づかみな横串といいますか、4部会の議論の整理でありまして、4つの

項目、国際化、若い世代、流動性、日本の個性といったような形で整理しているということでもあります。

こういう整理をしつつも、この間の分科会でのお話は幾つかあったのですが、1つは報告書の作成に向けて、総論と各論の間でどういうバランスというか、どういう整理をするかということで、総論の方はできれば4つの部会の報告書を俯瞰したようなストーリーをつくるというようなことでいかがかということをお私の方から申し上げました。その場の思い付きだったのですが申し上げて、ある程度各部会はそれぞれの部会ごとの個性なり問題意識というのがあるので、各論の報告書はそれぞれ独立した形で書いて、それを全体として平和であり、繁栄であり、幸福であり、叡智であるというのをまとめるという仕事は総論でやっていただくということが1つありました。

その他については、1つは、先ほどの流動性と若い世代というようなことと重なるかもしれないですが、ここの部会は割と若い世代を積極的に活用してということをお強調していたと思いますけれども、全体の話としては、それも大事だけれども、やはりいろんな年齢層の人、世代というものをそれぞれもっと活用するという議論が強くなっています。幸福とかはどうしてもそうならざるを得ないところはあると思うのですが、特に繁栄の部会が強調しているのは、40歳定年とか、55歳定年とか、1つの例示でおっしゃっていたのですが、早いときにライフサイクルを区切って、再教育をして新たなステージに移るといった形にするというので、これは若い世代にもっとチャンスをおあげるという意味にもなると思うので、余り若い世代だけにフォーカスするよりは、高い年齢層の人もずっと同じところにいるのではなくて、ステージによって働き方や仕事、広い意味での仕事を変えていくという形で人材の活用を図るといったような議論はこちらでも取り上げることができるのではないかと考えたのが1つです。

座長代理が環境の御専門なので、環境については別途御報告が総理との懇談会の際にあったのだと思うのですが、どこの部会で取り入れるかということについてはっきり結論は出なかったです。だから、各部会でできる範囲で環境のことについては考えているのが今の段階での話だと思います。最終的にどうなるかはわかりません。

とりあえずそんな形で各部会の話と、もう一つは、叡智の部会というのはほかの3部会とは違って、どちらかというとならば繁栄と平和は具体論、政策論が大事で、幸福論はある程度目標とか理想とかそういうものが大事で、だけれども、政策も重要だと。叡智の方は、やはりもう少し抽象的な話になるのではないかとすることは菅部部会長の方から御紹介があったと記憶しております。

まとまらない御報告で申し訳ありませんが、何か座長、事務局長、付け加えていただく、あるいは訂正していただくのはよろしいですか。とりあえずそんなところでもあります。

この懇談会及び前回の分科会について何か御質問はありますでしょうか。よろしいでしょうか。そうしたら、そういうことで、とりあえず今進んできているということでございます。

それでは、残りの時間で、私の方から資料お配りしておりますので、中間報告に向けた書き方、書く内容について、本日御議論いただきたいということでございます。

資料2の方は資料1のものと基本的に同一でありまして、先日の分科会に提出したもので、これは部会のこれまでの議論をできるだけ反映してやや細かめに書いたというものであります。

先ほど申し上げたように、特にこの平和部会の報告書としては、具体的施策としてどういうものを上げるかということが1つの焦点になるだろうと思います。これまでも幾つか具体的御提言があったと思うのですが、特にそういうものについてどういう書きぶりをすればいいかということをお本日御議論いただければいいかなと。

2050年の世界像についてから順番に申したいと思いますが、2050年に世界がどうなっているかということについては、余り踏み込んで考えてもわからないということが何人かの御報告趣旨であったのではないかと思います。複数のシナリオがあるわけですが、1つには、やはり米中が日本に近い国として重要であって、しかも世界的大国であるということから、この関係が重要になる。ただ、それ以外の国も2050年までには台頭してくるであろうということですか、平和に向かう要因、価値観の共有とか相互依存の深化といったような傾向がある一方で、紛争促進要因となるようなナショナリズムとか、資源争奪とか環境悪化というような要因も考えられるということであろうかと思えます。

2050年までになると国家主権というのがどこまで重要な意味を持っているかもいろいろ考え方は分かれるということで、いろんなシナリオが考えられるということは一番妥当かなと思えます。

日本について言いますと、やるべきことは比較的是っきりしていて、現状の未来ということではたくさんハザードラスな現象というのがあって、少子高齢化とか、災害等、知的な閉鎖状況、ガラパゴス化、国際関係の悪化といったような要因で、今後国力の衰退が加速して行って、国際的に受け身の存在、場合によっては自国の主権にも重大な危険が生じるような状態も考え得るというイメージで多くの皆さんの御議論があったのではないと思えます。

それに対して望ましい姿としては、戦後、日本外交の良質な部分、平和主義を首肯して他国に害をなさないというのを基本的な外交基調としてきたというような点は継承した上で、日本の伝統や創造性といったような特質には自信を持ち、平和創造により積極的に貢献し、ルールや制度、国際公共財等の供給者となる。より能動的なアクターとして、国際的に「敬意」を持たれる国家を目指すというようなことがこれまでの皆さんの御意見の1つの共通項ではないかと思っております。

そうした基本イメージを踏まえて、基本原則とボトルネックという言い方でどういう方針に向かうべきかということですが、1つは国力の総合的な活用ということで、新たな総合安全保障戦略とか、日本的スマート・パワーとか、軽薄な書き方ではありますが、日本の持てる資源は、アメリカとか中国などに比べると、ハードの部分では制約をされざ

るを得ない現実があるので、持っているものをより懸命に効果的に活用するというのが日本の取るべき方針であろうということでもあります。

その上で、特に米中二大国の間にあるという地政学的な環境を直視して、対外関係において協調を基本としながらも、基本原則を守り抜く、勿論、それは自国の領域的管轄権上の主権を維持するということを含めた力を持つということでもあります。

ごめんなさい、その次は重なっておるので省略しますが、その上で戦後日本の平和主義を資産として、更に能動的平和主義へと展開をする。国際舞台において参画をし、正しくかつ信頼される国として敬意を確立する。

日本人の固有の想像力、社会的強靱性、レジリエンシー、愚直な真面目さ、これなどは英語にしたらどうしたらいいのかよくわからないのですが、それを踏まえた上で、旧来の平均的教育制度を改め、国際場裡において活動できる人材を戦略的に育成するというようなことを挙げております。

それに対してボトルネックは見ていただいたらわかるとおりで、政治の力不足であるとか、財源の問題であるとか、メンタリティ、人材の不足とか歴史認識の問題といったようなものを挙げております。

2025年までに切り拓くべきフロンティアと具体的施策とここではまとめてありますが、フロンティアと具体的施策というので重なってしまう、冗長になってしまうところがあるのですが、一応フロンティアとして、防衛力とか、経済改革とか、人間の安全保障とか、近隣諸国との相互理解、交渉力を持つ人材、国家体制と少し抽象的に書いていって、もう少し具体的に挙げているのが次の具体的施策というところでもあります。

戦略的意思決定が行われる国家体制の構築として、NSCという言葉に言及するのがいいか、これももし御議論いただければと思いますが、そういうことですか、シンクタンクインテリジェンスのことが随分言われますけれども、情報を取ってくることも重要ではありますが、それ以上に日本社会における政策シンクタンクの弱さというのがかねてより議論されているところだろうと思います。それについては勿論民間のシンクタンクの強化も重要なのですが、日本の場合には官僚が各省庁で持っている情報及び人材というものを十分にシンクタンクとして活用できていないのではないかとこのところがあるのではないかと思います。ですから、組織も含めてこうした能力の向上ということも挙げてはどうかと思っております。

防衛力の整備について余り踏み込んだことは書いていないのですが、人的、経済的資源の制約があるということ踏まえた上で、統合運用、装備の効率的な取得、組織・法制・人的構成の再検討といったような形で、適切な防衛力の保持ということ表現してはどうかと思います。この点についてもより具体的な御提案があれば教えていただければと思います。

安全保障ネットワーク、あるいは安全保障アーキテクチャーという言葉が最近よく使われますが、日米同盟を基軸とした民主主義諸国との安全保障ネットワークの構築、友好国

との安全保障協力の拡大。必ずしも民主主義国ばかりではない可能性もありますので「友好国」と書きました。何度かこの場でも議論になっていますが、集団的自衛権の行使に向けた法整備ということについても、今のところは明示的に書くことを考えています。書くのはいいのですが、どういう理屈付けをするかということについては若干工夫の余地があるかと思いますが、一応これを挙げております。

アジア太平洋地域における交流と統合の促進。地域共同体構築を目標として提示するというので、これも東アジア共同体というやや手あかが付いた言葉を使うかどうかは議論の余地があるかと思いますが、前回でしたか、議論の流れでもこうした理念というものを掲げた方がいいのではないかという御意見があったように思います。そのためにここでは掲げております。

これも総理の御関心のところですが、国際的なルール形成、ガバナンス活動において主導性を発揮できる人材の育成ということになります。これも具体的にどうするかというのはなかなか難しいところがあるかと思いますが、とりあえずは教育や公務員、キャリアパスといったものを挙げております。

国際災害援助分野における先進的な危機管理モデルの構築と諸外国の主導ということですとか、人間の安全保障、平和維持、平和構築、この辺、従来日本外交が重視してきていると掲げてきたところではありますので、更に踏み込んだ具体的提案があれば付け加えていきたいところがあります。

教育の改善というと当然改善した方がいいのですが、歴史や市民、知識人などの多層的な人的交流の拡大ということについてもお話が出ていると思いますので、掲げております。

TPPについても掲げて、経済構造の改革、資源・環境問題、新たな技術分野、順番が最後になってしまったのですが、本来的にはより重要度が高い内容だと思いますが、無人化、バイオ／医療、介護、エネルギー、環境、海洋探査利用、宇宙開発等、私が議論されたと思い、また思い付いたものを掲げておきました。この点についても御意見をいただければと思います。

これが全体のイメージを分科会に向けて用意したのですが、改めて中間報告の構成案という方をごらんいただきたいと思います。今お話ししたところと重なるところも多いのでさっと参りたいと思いますが、事務局の方から示唆された構成で少し行ったり来たりになってしまうかなと思いましたが、構成を変えたのが1点であります。2050年の日本の姿ということで、世界の推移も含めて延長線上の日本と望ましい姿、そしてそれを実現するための障害となっているボトルネックといったようなものをまず3～4枚程度で表現して、後半部に実現のための方策ということで基本原則からフロンティア、具体的施策と広げていくというイメージで整理しました。

具体的に施策について先ほどの御紹介では、これまで部会で議論されたことをできるだけ最大公約数的に取り上げたつもりなのですが、もう少しメリハリがあった方がいいという御意見もあろうかと思いますが、恐らく羅列的であっては面白くないというのは確かだ

ろうと思います。

そこで、6つぐらいの柱ということで一応まとめてみました。内容は繰り返しになりますが、防衛、安全保障アーキテクチャーということと、市場メカニズムを基調とした開放経済と地域統合・共同体の形成。3番目に、日本の強みを生かした戦略的な技術開発。4番目に、能動的な平和創造国家としての平和構築、災害地対応。5番目に、国際社会で活躍できる高い能力と公德心を持った人材の育成。6番目に情報収集、分析、意思決定を行える国家体制の整備という6つぐらいの柱でまとめて、それぞれについてある程度説明を加えるというような形式にするのがバランス的によいかなと私の方では思った次第であります。

本日、自由に御意見をいただきまして、その上でこの構成案について修正を加えて、適宜書くというか、皆さんにお手伝いをいただくというようなイメージで考えておりますので、今日、残りの時間は基本的にディスカッションでございます。私の方から御説明を申し上げた点、先ほどの総理との懇談会、分科会での紹介も含めまして、自由に中間報告に盛り込むべき点、考えるべき点について意見を交換していただければと思います。

どうぞ、どなたからでも口火を切って、いかがですか。

○委員 先ほど委員の方から御紹介のありました総理との懇談で、やはりルールメイキングというのをこのフロンティア分科会全体の方向性として考えて、そこにプライオリティを置くということであると理解しています。先ほど御説明いただいた資料2の具体的な施策のところ、ルールメイキングというのはワン・オブ・ゼムになってしまっている感じがします。報告書を書くときにほかの部会もそうだと思うのですが、この部会としてルールメイキングをやるのだ、そのためにはこういうことをしなければいけないという形でルールメイキングが出来る国になるということを目的化した方がいいのか、それともそれはワン・オブ・ゼムでほかにもいろいろこの部会で扱うべき問題はあるから、ルールメイキングというのはそのうちの1つだと位置づけるのかで大分変わってくるのだと思うのです。

そういうところの判断で言うと、やはりルールメイキングを1つの目的にして、それに向かって何をやらなければいけないかという整理をした方が、いわゆる羅列的なものではない報告書になるのかなという気はしました。

○部会長 どうぞ。

○委員 恐らく一般の人がこの報告書を見てどういうふうになればわかりやすいかということも考えなければいけないと思うのですが、2050年の世界像という骨子案の最初のところで書いてくださっているのが非常にいいと思うのです。つまり、平和に対しては紛争という対抗概念があって、紛争をどうやって避けることができるのか、あるいは紛争を促進する要因をどうやって抑えることができるのか、これが非常にわかりやすい言い方ではないかと思ひまして、今のルールメイキングというのも、これは紛争を回避する上で非常に重要なポイントであるという文脈にすれば、よりわかりやすいかなという気がする

のが1つです。

もう一つは、そうやって紛争ということを考えてみますと、非常に重要なことは、アメリカも含めて日本の周辺国と日本がどうやって仲よく付き合っていたらいいのかという、そこが大変に重要なポイントではないかという気がするのです。そう言えば非常にわかりやすいと思います。なので、それをもう少し表に出るような形でアピールする、そのためにはどうすればいいのか、あるいは何を避けなければならないのか、そういった1つの軸もあり得るなという気がしました。

○部会長 ありがとうございます。

ルールメイキングを1つの最終目標としてそこに議論を集約させていくというのは、形としては非常にすっきりするやり方だと思うのですが、私の方でそこまで踏み込まなかった1つの理由は、特にこの部会の最初の方で出た、日本をめぐる戦略環境というもの是非常に厳しいという御意見がありますね。平和という場合に、国際社会全体の平和を維持することによって日本も平和を享受するという側面があって、国際社会全体の平和をつくり出す役割をより大きく担うという側面の1つの表現がルールメイキングだと思うのですが、そういう側面と一国の日本自身のサバイバルをどうするのかという点で、それについて、従来以上に真剣に考えないといけないという方向性もあるのだらうと思うのです。

ですから、その両者が有機的につながってルールメーカーとして日本がより自己のアイデンティティを持つという形でまとめられるといいのだと思うのですが、それをすると自己のサバイバルの側面というのが弱くなってしまふかなという懸念もあって、おっしゃる御印象は確かにあると思います。それで並列的にしてあるところがあります。その辺りもうまく重層的に組み合わせる。結局それは表現力の問題なのかもしれないのですが、その辺りを少し私としても迷っているところがありますので、その点についても御意見をいただければと思います。

日本と周辺国の関係という場合に、中国は大きいですね。勿論、中国との関係が大事だというのは当然あると思うのですが、それと韓国があり、台湾について書くかどうか難しいというところがあって、それから勿論、北朝鮮があり、東南アジアということなのですが、その辺りでどこまで個別化して書くかということがあるのです。その辺りもう少しイメージを与えていただければと思うのです。一からげに周辺国と言っても、今いろんな性質があるのではないかなという印象があるのです。

○委員 なかなか難しいですね。勿論、中国が非常に大きなチャンスであり、リスクであるわけですから、中国との関係をどうマネージするのかということが最大の課題であることは間違いのないことなのですけれども、そこだけ突出して書くとまた具合が悪いということなので、どういうバランスで書くかというのは私も今アイデアがありません。中国の突出は避けつつ、しかし、中国問題についてはしっかり考えているのだということも明らかになるような書きぶりですね。でも韓国との関係、朝鮮半島の問題もあるので、これまた大事であることは言うまでもないし、そういう東北アジアをマネージする上でも、東南

アジアとの関係は経済面だけではなくて、いろんな意味で大変重要だということで、結局、近隣の国々と積極的に建設的に付き合うということがよほど大事なことなのだというメッセージがちゃんと出るようなものがないのではないかと思います。

例えば去年はインドネシアが東アジアの多国間のいろんな会議の議長国だったわけですが、ユドヨノ大統領が日本にやってもほとんど報道されないという状況では、日本の平和はおぼつかないというようなことがちゃんとみんなにわかってもらえるような文章がいいのではないかと思います。

○部会長 全く同感ですけれども、なかなか表現として難しい。ありがとうございます。どうぞ今の点でも違う角度の点でも。

どうぞ。

○委員 ルールメーカーは多分平和安全保障だけではなくて全般的に言えると思うのですが、特に平和安全保障になると、多分ルールをつくる側になったときにはルールを守らせる責任が出てくるのだと思うのです。そのときに1つは国連の安保理をはじめ、ある程度、国際的なルールを守らせるための国際的な強制措置、こういうものにきちんと加入していく責任が出てくるだろうと思われま。その意味でも、ルールメーカーになる議論というのはすごく大事だとは思いますが。覚悟すべきは、大体国際社会というのは余りルールを守らないのが基本であって、守せるすためにはどうするかということを入念に入れておき、ルールメーカーになるための議論をする必要があろうと思いました。

○部会長 ありがとうございます。

多分ルールについてここでの議論は、どちらかと言えば国際会議などでルールをつくるときにより大きな役割を果たせるというイメージが強かったとは思いますが、渡部委員がおっしゃるところはまさにそれで、つくった以上は自分が守るだけではなくてほかの国も守らせるように一定の責任があることは確かですね。それをどこまでやるかという程度が難しいです。アメリカは少なくとも過去にはルールをたくさんつくって、つくるだけではなくてそれを守らせるということを非常に重視していたのですが、日本はそこまですなかなかなりにくいのではないかなと思うのですが、自分に関わらないことには何もやらないというのでは多分足りないというところで、限界づけが本当に難しいところですね。

それとの関連で、ここで言及しなかったのですが、いわゆる安保理常任理事国入り、そういうことについて言及はいかがでしょうか。一言書いても余り意味がないような気もするのですが、やはり書いておいた方がいいという御意見もあろうかと思しますので、これは後々調整でもいいかと思いますが、もし御意見があればそれについてもいただければと思います。

○委員 そのルールメーカーにならなければいけないということはだれしも異としないと思うのですが、それが具体的に実現する姿をイメージすると、どうもピンとこないというのが私の実感的な印象です。

なぜだろうというところの答えは半分以上委員が今与えてくれたのですが、エン

フォーサーであり得るのだろうかということを考えましたとき、あれもない、これもないという欠落のリストばかりが先立つわけです。

ですから、少なくともエンフォースメントを図っていくために国連と名指すかどうかはともかく、国際的な組織の中できちんとした発言権とパワーを持つということは必要なことだと思いますし、しかし、国連の常任理事国に入るかどうかというのは気が遠くなるような話であることは周知の事実でありますから、その場合にいかにして自分が好ましいと思うルールを普及させ、かつ強制させるのかというところで、やはりネットワーク的な考え方、地域的な安全保障の部分でも出ていますネットワークのような、力を合わせるというところに私は持っていくべきなのではないかという考えです。

併せてもう一点だけ。資料2の望ましい姿を実現する上での基本原則とボトルネックというところの一番下に、能動的、戦略的に国際舞台に参画し、正しくかつ信頼される国としての敬意を確立とありますね。実はこの中でできてないのは、恐らく国際舞台に参画しというところだけなので、正しくかつ信頼される国としての敬意というのは相当程度確立していると思います。ですから、足りないものは、ここでもありてい言えば国連の常任理事国入りというようなことがイメージされているのだろうと思うのです。

国連の常任理事国でなければやれることにも限界があるし、また、フォースとしての存在でなければ他から恐れられることもないという辺りです。そこをどこかで認識として書いておかなければならないような気がします。

○部会長 ありがとうございます。

要するに常任理事国入りを目指すというのはこれまでも言ってきたし、言うのは簡単なのですけれども、現実是非常に難しいというのは委員がおっしゃるとおりで、そうなれるような能力なり意思は持つておくということですか。ルールをつくった以上はそれが守られるということにも責任を負うということで常任理事国になる状況が整えればその役割を果たせる能力を持つ。意思と能力を持つということになりますでしょうか。

○委員 力のない者がルールをつくりたい、つくりたいと言ってもむなしいわけでありまして、ルールをつくらうと思えば力が要るのだというところの認識だと思いのです。その力というのはむき出しの力も要るでしょうし、制度・組織としての力も要るでしょうから、その獲得を片時も捨て去らない、求めるということなのではないかと思ひます。

○部会長 ありがとうございます。

○委員 ルールメイキングと言ひ出したので付け加えますが、私は今、委員のおっしゃっていたことは全くそのとおりで思ひますけれども、ただ、国際社会のルールは、これはルールの定義にもよると思ひますけれども、いわゆるハードローのような、要はルールをつくってそれを守らなかつた者は罰せられるというものだけではないような印象を持っています。ある種の規範というか、価値観に基づく行動準則というものをつくっていくというのもルールのうちに入ると考へているので、確かに委員がおっしゃるような力は必要だと思ひますが、それがむき出しの力であるということとは別の力、例へば規範力

というのは変な言葉ですけれども、そういう力が必要だと思っています。規範力とは、他者に向かってこれはいけないことだねという説得力のような力であって、こういった力も国家の力のうちに入るのかなと思います。私は専門でヨーロッパのことをやっていますので、ヨーロッパの国々を見ていると、必ずしも一国の国力とか軍事力、経済力ではない部分でそういうイニシアティブを取っていく、例えば福島原発事故が起こったときに、即座にフランスが議長国を名乗り出て、核の安全みたいなものをやり始めるといったような、機動力、これも力だとは思いますが、そういうタイミングをつかむ能力だったりとか、多分いろんな要素が「力」にはあると思います。なので、その辺は余り限定的にルールというのも力というのも狭い意味でとらえない方がいいかなというのをリマインドしておきたいと思います。

○部会長 どうぞ。

○委員 ほかのフロンティアと比べると、このフロンティアは安全保障というものがある比重を持つと、この部会だけがかなり国という単位を意識してやらざるを得ないというところはあると思うのです。

どうなるかわかりませんが、グローバル化が進んでいく過程で、私が知っている範囲の通商交渉とか見ていると、WTO がいつまで経っても動かないので、一方で抜け駆けとしての FTA みたいなのが結構流行っていて、だけれども、これも実は古くなっていて、今は通商交渉はバイからプルの世界にいつているのです。今、中国とか韓国とかやっているのはまだバイのレベルで、これは関税を下げてもらい、輸出が伸びれば万歳の、はっきり言って途上国的な原理。TPP の新しさというのは、あのアメリカと言えどもワン・オブ・ゼムになった交渉をやるということです。これはバイの FTA と全く違う話で、アメリカにとっても初めての経験なのです。これまで全部バイの FTA だったから、全部自分の国力で、相手はみんな小さいですから一番大きくて韓国とかメキシコしかないわけですから、全部アメリカのルールで押し切ってきたのを、今度の TPP に関しては自分もワン・オブ・ゼロに一応下りざるを得ないです。よく反対の人たちが言っている医薬品分業で国民皆保険崩壊みたいな話は出せないです。ほかの国はみんな反対だからということなのです。

だから、プルリの中でルールメイキングしていくという世界で、多分いろんなプルリができて、それが競合して効率の方が生き延びていくという、経済的なルールメイキングはそうかもしれないし、安全保障ではもうちょっとバイのプルリの世界ができるのかも。既に安全保障という意味ではプルリは存在しているので、経済交渉というのは違うかもしれませんが、プルリの中のルールメーカーとかルールセッターになるべくっていった方がいいか、少なくとも負けるプルリに与してはいけないというのはあると思うのです。

○部会長 ありがとうございます。

先ほど委員のハードローあるいはソフトローという言い方をおっしゃいました。そういう側面がミューチュアルエクスクルーシブではないと思うのです。両方の規範が国際秩序にあるし、ソフトロー的なものの1つの在り方が、今、委員のおっしゃったようなプルリ

の通商ネットワークのようなものかもしれない、そういうふうには言えるのではないかと思います。

TPPについては、恐らくこの部会は基本的に割と支持するところがあって、そこは先ほど御紹介があった幸福部会などと部会が違うのかもしれませんが、そちらの調整はこちらの方々にお願いするとして、やはり気になっているのは、経済安全保障という面で自給率とか資源とかそういったものをどう考えるかというのは、多少我々としても考えておいた方がいいのではないかなと思います。その辺り、農業についてどうすべきという話をしだすと別の話になってしまうので余りやりたくはないのですが、大まかなイメージとして、そういう資源について安全保障を確保するにはどういうイメージを持った方がいいというような御意見はいかがでしょうか。

○委員 農業の再生会議でも結構議論になって、ある程度は固まってきたかと思うのですが、結局自分の国だけで全部自給率 100%になると危険なのです。

一番重要なのは、みんなが安定的に食料を確保できるということなので、それは農林水産省さんもほかの方々も今までみんなおっしゃっていたとおり、常識的に考えれば効率のある国内生産と安定的な輸入と適切な備蓄という 3 つをうまく組み合わせ、最も効率的に豊かな食生活を送れるような条件をつくっていくということだと思うのです。

自分の国だけで自給すると非常に危険なのは、自分の国が地震とか災害に見舞われたら全部途絶してしまうわけです。普段から買っているから、お得意さんだから、やはり届けてくれるところがあるわけで、この 3 つの組み合わせでリスクを分散するというのが定石だし、これ以上の議論というのは私はないと思います。

○部会長 それで言うと、現状の日本の例えば農業の置かれている自給率が数字によれば 4 割とか 3 割とかそんな数字が出てきますけれども、とにかく現状というのはどういう評価なのでしょうか。

○委員 現状は、散々その会議でも出ていたと思うのですが、一番保護されてきた、一番利権に結び付いた、一番価格メカニズムを否定してきた米が最も悲惨な末路をたどっているのです。最も生産性が悪くて、最も国際的に高いものを食べていて、イノベーションも一部を見ていくとそんなに進んでいるわけではない。野菜とか果物とか、いわゆるオランダ型農業みたいなところは関税が早くから下がっていますから、結構独特なものをつくり出してきているのです。市場のメカニズムを無視したところというのがより結局農家にとっても一番もうからないからだれもやらないです。だれもやらないから農地は荒れ放題になって、もっと生産性が落ちていくということです。それは減反という価格政策の欺瞞が生み出した一番米をかわいそうな状況に置いてきたわけですから、今の到達点というのは、少なくとも農業は土地を大きくして生産性を上げるという当たり前の方向にとりあえずリセットしてということ。いろんな利益が絡み合っていますから、土地型農業に手を付けるのはものすごく難しいと思いますけれども、今のままだともう平均年齢 70 歳の農家ばかりで、農家は壊死していくということ。

○部会長 ありがとうございます。

この点について、御意見がほかに。資源とかエネルギーというのは繁栄の方がやるのですか。

○事務局長 繁栄の方で多少取り扱っていただくというような感触はあるのですが、特に大きく取り上げるということはないのではないかなという感触です。

○部会長 だからといってこの部会で引き受ける必要性はないと思うのですが、やはり取り上げるべきだという御意見があれば勿論考えたいと思いますので、そのことも含めていかがでしょうか。

どうぞ。

○委員 今、先生お話しされた食料安保の話は、まさに私も同じ結論を持っているのですが、日本に食料危機が起こるといふ場合に心配しなければならないことの1つは、食料だけでなく食料を運搬するための燃料、ガスや石油の輸入が止まるということが、組み合わされて起こる可能性があり、その場合は日本は非常に困ることになる。だから、安全保障というのであれば、そういう可能性を一通り、想定しておく必要があると思います。特に、食料やエネルギーとかの運搬路、いわゆる SLOC（シーレーン）の確保が、総合的な安全保障と密接に結び付くので、これをどうしましょうかというところからだと、アプローチしやすいのかなという気がします。

特に、輸出入の経路が確保されないと、実際はエネルギーだけではなくて日本がお金もうけをして稼ぐための貿易にも困ったことになります。食料安保で言うと、国内の生産を維持することも重要だけれども、その生産がダメージを受けた場合を考えれば、輸入ルート確保の両方を考えなければなりません。安全保障で考えれば、物の流通するサーキュレーションをどう確保しましょうかというアプローチになるでしょう。そうすると、資源安全保障も食糧安全保障も、経済安全保障も一緒に考えやすいのではないかなという気がいたします。

○部会長 ありがとうございます。どうぞ。

○委員 食料の安定供給についてはお二人と基本的に同感です。同じ籠にたくさん卵を盛ってしまっただけいけないというのはポートフォリオの基本だと思いますので、食料自給率と食料安定供給の問題はそれぞれ独立して考えるべきかという印象を有しています。また一部の EPA 交渉では食料を始めとする資源の安定供給というのも交渉の対象となっている訳でして、そういった Like-minded countries と食料の安定供給の確保を目指すということも、先ほどから議論にあるルールメイキングの議論と同じ文脈考えられるのかなと思います。

ルールメイキングの話で1つ戻って、質問に近いコメントなのですが、やはり私自身、how と what が正直まだよく見えないなというのがあります。what、つまり何のルールかというのは今いろいろお話があったように、広い意味での様々なルールということなのかもしれませんが、how に関しては先ほどエンフォーサーというご指摘もありました

が、そもそもどの場でルールを話し合い、決めるのかなというのをよく考える必要があると思います。安保理メンバーとして国連の場であるということもあるとは思いますが、やはり一段飛び越えてなかなかそこまではいかないという気がします。この点については特に EU のメンバーというのは非常に巧みです。まず彼らはヨーロッパの中で揉んで、それを国際的なルールとして広めていくということをやっています。手前みそになりますが、先日のプレゼンでも同様のことを申し上げました。例えばアジアの中でアジア版 OSCE 創設まで進めていくのはなかなか難しいのかもしれませんが、では既存の ARF などの枠組みを使うのか、そういった場でまずは地域内で揉んでいくということ、それが現状においては脆弱というか、そういった話合うや場がそもそもないのではという問題意識はあります。

○部会長 ありがとうございます。

ルールメイキングのところで、確かにルールメーカーとなるという話は美しいのですが、イメージは恐らくあるのではないかと思います。

ですから、これまでそういう国際場裡で活動できる人材がまずいないといけないだろうと。弾がないのに戦争はできないので、まずその弾となる人材が要るのだろうという、それは確かであろうと思います。だけれども、それだけでは必要十分ではないだろうと思いますので、国連でつくるルールというのものもある。国連のような普遍的な国際機関でつくるようなものもあるでしょうし、これまでの G7、G8、今、G20 となっていますが、そういうややクラブ的なところでつくるルールというのものもあるでしょうし、もう少し小さな単位でやっていく、あるいは一方手的にやって、そこにほかがシンクロナイズしていくようなルールメイキングというやり方もあるだろうと思うのです。どんな形で日本がルールメーカーとしてより大きな役割を果たせるということになりますでしょうか。

ARF なりアジアは確かに 1 つの筋だと思うのですが、あえていうと日本の評判がいいのは、やはり日本から遠いところの評判の方がいいのです。それが 1 つの大きな問題、それ自身が問題で、近隣との関係が一番難しいわけですね。

だから、そこをどうするかはそれぞれの問題なのだけれども、日本について評判がいいのは、割と離れているところがいい。そう簡単に言えないかな。アジア版 OSC なり ARF なり、そういうところで固めてというのが 1 つの筋になのかどうか、少し考える必要があるかなと思うのです。1 つの在り方だと思うのですが、どうでしょうか。

非常に強くルールメーカーとしての日本ということまで全部をシンクロさせていくかどうかはまだ私の中でもはっきりしていないのですが、1 つの柱には確実になると思いますので、その辺りを日本が真剣にそういうことを考えようと思うと、あと 10 年ちょっとの間にこういうことをすべきだということで具体的な御提案、アイデアというものを出示していただけると助かるのですが、いかがでしょうか。

○委員 論点として、ルールメーカーということと安全保障ということと 2 つあったと思

うのですけれども、今、国連とかいろんな枠組みが G7、G8、G20 とかあると思うのですが、多分 2025 年はわかりませんが、2050 年になると果たして本当に、WTO とかそういうのがあるのだろうかというそもそもの疑問がまずあるのです。

1 つは、ちょっと逆説的かもしれませんが、日本という国が先ほど説得力というお話が出ていましたけれども、そういう国だったらどういう枠組みであっても言うことは聞いてもらえるというか、例えばこの間の EAS などは、枠組みはともかくとして物すごく日本としては動いて、いろんな診断とか準備とか根回しとかをしてアメリカを引き込んで中国にプレッシャーをかけるようなことをしたと。全然何も決まりも書かれていませんし、形としてふたを開けてみるとそうだけれども、後には残っていないのです。ただ日本がやったことはすごく大きいと思うのです。この間のことはもう 1 年、2 年越しで動いてやっとできてきたことだと。それは国連安保理というのは失敗して、常任理事国に何年も仕込んだけれども、だめだったという結果ですけれども、やはりうまく説得力があって、国としてちゃんと機動的にまさにタイミングとかそういうのも持って人材も入って、そういう動く国であるという、漠然としていますけれども、そういう人材とかリソースがないと、どういう枠組みがあっても、言うことを聞いてもらえないと思うのです。

という意味では、枠組みの議論も必要なのですが、原点に戻るようで恐縮なのですが、日本がどういう強みを持ってちゃんとアピールできるかということにルールメーカーという意味では指摘をする必要があるのではないかと思います。それは人材育成とかなのだと思うのです。

安全保障という意味では、食料とエネルギーと非常に大事で、これも対外的な交渉はあると思うのです。例えばエネルギーにしても電力にしても、ヨーロッパの場合はネットワークがあって、ドイツが脱原発してもどんどん入れられるわけです。だけれども、日本の場合はそれを本当にやろうと思うと、韓国やロシアと電力網、送電網を引いたり、そういうことをしないといけない。やはり日本として自分の国としてやるのがたくさんあるというか、相手との交渉だけではなくてやることがあると思うのです。

食料についても、生産も備蓄も輸入も、輸入というのは一番外との関係だと思うのですが、備蓄と生産の国内の話なので、そこをしないと安全保障という意味では、外との関係だけではなくて、日本の国の中であることがたくさんあるので、ここは平和だから対外的なことを話し合うことではあるのですが、安全保障という意味では対外的なことと国内的な体制づくりと両方のところを議論しないと、バランスを欠くかなという感じがします。

○部会長 どうぞ。

○委員 今のお話は大変私も共感するところがあって、例えば先ほど出てきた送電網の話にしても、日本の場合、対外政策というのが国内の利害関係から決まっていく。食料安保にしても、まず農協のことを考えてから食料安保理のことを考えるという順番で、どちらかというと対外的な関係から敷衍して国内をどうするかという思考をしてこなかったと思

うのです。

勿論、どちらがいいというわけではないのですが、2050年というある種、我々の手の届かないような距離の未来を考える、そういうところのイメージ、今ある閉塞感を変えてくということをして1つの分科会の目的とするのであれば、ルールメイキングというのは現在の延長から考えるとなかなか難しいけれども、それを目指していこうというビジョンを出すということであれば意味のあるビジョンだと思います。だとすれば、今いろいろ問題があって人材もいないし、そんなことが本当にできるのかどうか現実的ではないかもしれないけれども、それを目指していくためにはどうするかということを提言していけばよいと思います。これがバックキャストという考え方だと思うので、既存の例えば国連安保理とか、そういう枠組みに限定して考える必要はないのではないかなと思っています。

先ほどのハードロー、ソフトローで言うと、安全保障の問題も、もう国連安保理で物事が決まることという大分少なくなってきたのです。シリアの話もそうですけれども、国連安保理は非常にかたい制度であって、拒否権を持っている国があって、何か決めようと思うと大概うまくいかない。でも、例えば安全保障の問題だと、六か国協議とか、これもうまくいっていませんけれども、既存の制度ではないアドホックにできているようないろんな仕掛け、EASなどもそうですけれども、そういうフレームワークは幾らでも作り得るものなので、既存のものにのっかるというだけではない、ある種オープンなものだと思うので、余りそこは考えすぎなくてもいいのかなと思っています。

○部会長 最後の考えすぎなくていいというのは非常にありがたいお言葉ではあるのですが、実際非常に難しいところですね。報告書に向けてイメージを考えれば考えるほど、余り既存の枠組みをおっしゃったとおりにそれにのっかって話をしていると、どうしても話が割と平凡になってきてしまうので、せつかくこのバックキャストでビジョンというのに合わないのですけれども、かといって、きれいなことばかり言っていて本当にできるのかなという気にもなるので、その辺り、いいバランスで、ある程度具体性もあるけれども、現状からのジャンプにもなっているという辺りのいいアイデアが特に具体的施策、これをどこまで書き込むかというのは、中間報告で終わりではなくて、恐らく最終報告にまたいろいろ肉付けをしていくということにもなると思うのですが、やはりその辺りで少しオリジナリティを出したいなと思うのです。

どうぞ。

○委員 ルールメーカーになりたいと野田総理がおっしゃるのは、多分目標としてきちっとしたものを掲げてほしいということだと思います。それは結構なことだと思います。

そして、それをもっと平たく言えば、いつでも世界から一目置かれて、何かがあったら声がかかる国でいてほしいということですね。そういう国だったら、それはルールづくりができるわけですから。それをこの4つの部会の総合力でもって目指してほしいということ、これは恐らくそれほど異論のない合意点だと思います。経済力もなければいけないし、叡智もナレッジの力もなければいけないということなのでしょう。

それでは平和部会でそれをどうするかということなのですが、力というものをどう表現するかだと思います。それは力にはいろいろなものがあるとおっしゃる、そのとおりだと思うのですが、国際舞台の中で一目置かれる存在、ルールをつくれるぐらいの力が振るえる存在、言ってみれば大国の一角を占め続けるというためには、力を考えなければどうしてもあり得ないわけですし、そのためにいろいろな言い方があるとは思いますが、私は日本の一国としての存在も考えますと、やはり国際公共財の保全を図るだけの力を持つ、そしてその力を同じ考え方を共にする人たちと一緒に育てていくという辺りかなと思います。

○部会長 どうぞ。

○委員 ルールメイキングについて、どのようなルールをメイキングするかということに関してですが、私はあらゆることすべてに関わる必要はないと思ひまして、逆に日本にしかできない、日本にしかメイクできないようなルール、そういう分野があると思うのです。そう考えますと、例えば、安全保障分野というだけではなくて、災害、環境、貿易やヒト・モノ・カネの流れですとか、いろいろな分野があるわけでごさいます、そんな中で日本が強い部分、日本の知識や経験が生かされる部分でルールメイキングに関わって積極的に出ていけばいいと思います。

あともう一つが先ほど常任理事国になるという話にも関連しますけれども、ある程度国民の後押しがあるような分野です。個人的な意見ですけれども、常任理事国になるという方向性というのは、もちろん重要なことであるとは思いますが、現時点で必ずしも国民の大きな関心事では余りないような気がしま、す。それは一例ですが、ある程度この報告書を読んだ一般の国民の方から見てイメージが付きやすいというか、自分の生活の今後数十年後の延長線上の、自分の生活に利益があるというか、いいことだと思える分野でのルールづくりに参画していけばいいのでは、と思ひました。

○部会長 具体的にそういう分野として、最初に環境とか貿易とか災害とか挙げられましたけれども、そういった分野というお話でしょうか。

どうぞ。

○委員 今の3人の方の話を聞いていてピンときたのは、多分皆さんピンときていると思うのですが、ルールメイキングは何でもかんでもというのは結構疲れますから選択して集中した方がいいと思います。

そのときに国民が納得するのは、死活的な利益というか、それが止まってしまったらみんなの生活は困ってしまうという問題です。食料安保とかエネルギー安保とか、供給路が遮断されたら生活が困るねというようなことというのは、一番国民が議論に参加しやすい、せざるを得ない議論になるのだと思います。

実は野田政権は既にいろいろ動き出しているのですが、例えば南シナ海から東シナ海、マラッカを通してインド洋のシーレーンの航行の自由というのに対してもう少しルールを守る仕組みをきちんとつくらなければいけませんと各国で動いている状況に対して、日本

も積極的に動いております。もうやっているからいいんじゃないかというそんな簡単な話ではなくて、多分何十年もかかる仕事になります。こういうのは日本がすべき、そして国民が納得できるルールメイキングではないでしょうか。

○部会長 ありがとうございます。

どうぞ。

○委員 ただ、国という単位で考えて動いていく社会の中では、私はファンクショナルな、うちはこれには興味があるからルールメイクを積極的にやるけれども、これは興味がないし、比較優位がないからやらないよというのは余り通じないと思うのです。国力は全体的な問題なので、あなたはこれに対してどう思いますかと聞かれる国であるかどうかというのは、もっとならしたトータルなものであると思うし、一応あなたはどう思いますかと聞かれて、うちは余り興味ないからというのはいいのですけれども、もっと最悪な、すごいバイタルなインタレストがあるのにだれにも聞かれないという悲惨な状況はとにかく避けなければいけないというのは、それをボトムラインとしては設定してなければいけないと思うのです。

そういう意味では、多分災害とか得意分野で、あの災害に耐えている国と言えば輝くブランドだと思えますけれども、それだけの国であなたはどう思いますかと通商についても聞いてくれるとか、アフガンとの安保はどうしますかと聞いてもらえるか、それは聞いてもらえないわけです。やはりファンクショナルな関わり方というのは限界があって、トータルに考えていく必要はあると思います。

もう一つは、遠交近攻は永遠のセオリーだと思うのです。遠い国は余り関わったことがないから印象はいいに決まっているのです。近い国はどろどろにやっているのでいろいろな差し障りがあって、よくアジアとうまくやらなければだめだと言っていますけれども、アジア自体が非常にグローバル化された世界なわけです。非常に通商の比重も高いし、今の日韓の間の竹島だって、『The New York Times』の1面に竹島はうちの領土だとがながんやって、アメリカの知識層にいかん韓国論を浸透させるかと物すごくやっているわけです。多分中国も、そのうちアフリカの教科書には中国の対日観というのが載るかもしれないのです。だから、もう全部グローバル化しているので、近い国とだけ重点を置いてうまくやろうとしても、むしろグローバルに大きなポジションを持っていった方が、近隣国にとってもイコールフットイングな競争になるかなと思います。

○部会長 ありがとうございます。

重要な視点で、恐らく日本にとっては永遠な課題みたいなところがあって、近い国、中国とも朝鮮半島とも、それほど歴史的にも深く付き合ってきたわけではないと思うのです。それが近代の過程では付き合いが政治的に深くなって、それが必ずしも親しい関係になっていないということだと思えるのですけれども、そちらを直接的に直せばいいのですけれども、なかなか難しいというのは関わっておられる方の1つの印象ではないかと思うのです。

だからこそ先生は更に頑張るべきだというお立場でしょうし、ほどほどにしておいてグローバルに見て、そこから近隣関係をよくしていこうというので、これは日本にとっては割と永遠の課題みたいな感じがします。うまく対応できるかどうかわからないですけども、御意見ありがとうございます。

何人かまだ御発言いただけていないのですが、どうぞ。

○委員 先生のレジュメですと、どちらかという日本国がどうするかという話が多いのですが、先ほどのバイでもマルチでもなくプルリという話ですとか、国連みたいな国際機関あるいは国際レジームみたいなものは割とリジットで動きにくいのでコアリションみたいなもので動きがちで、ただし本当にコアリションでやってしまうと物すごく効率も悪いし、必ずしもいいポジションが取れるとも限らないので、ある種バイとマルチの間のプルリでもあるし、コアリションとレジームの間でもあるという、ネットワークとしか言いようがないようなもの、そういうネットワークをいろいろ展開していく必要があるということしてくれるのかなという感じがしています。そして、そのネットワークを日本と結ぼうと相手に思わせるだけの力を日本が持つ必要がある。英語として正しいかどうかわかりませんが、ネットワークアドバンテージといいますか、そういうものを持っていくということが我が国の国力も高めていくし、実際何か動かすルールメイキングの力にもなっていくということでも何となくまとめられないかなという感じがします。

そういう観点で言うと、先生の挙げ方を裏返したみたいな感じになるのかもしれませんが、集団的自衛権の話にしても、結局ネットワークをすることをとめている障害といいますか、そういうふうにも言えるわけです。秘密保全の問題などもそうですけれども、ほかの国と情報をシェアするときそれをとめる障害になっているわけですね。通商分野で言えば、農業問題とかもそうかもしれませんが、そういうつながらなければいけないのにそれを阻害しているものがいろいろあって、それを除いていくという言い方ができる面もあるかなと。それだけで全部言いきれぬかどうかわかりませんが、かなりの程度はそれで言えるのではないかと。それは国と国というだけではなくても、人と人のネットワーク、先日お話のあったエリート/ネットワークというレベルでも、同じキャッチワードでくる必要はないのかもしれませんが、そういうネットワーク自体をつくっていかねばいけないし、そのための力をどうやってつくっていくかということでも何かまとめられないかなというような印象を持ちました。

○部会長 ありがとうございます。

そういう観点から、集団的自衛権の話なども含めてやっていくとすっきりするような気がしますし、余りにも政治的にチャージされたテーマなので、そういう観点からアメリカとどうするかという話よりは、むしろネットワークアドバンテージという観点から集団的自衛の話も入れてしまう方がすっきりするかもわからないです。ありがとうございます。

どうぞ。

○委員 恐らく先生も迷っておられたのは、集団的自衛権ばかりが突出しますと、新聞が

見出しをそれで付けに来るのは容易に想像ができますし、何だか出来レースだったのかといったような批判も出るでしょう。そこら辺りは懸念されて当然だと思うのですが、やはりこれは正論といたしますか、問題に正対する発想から言いますと、2050年を考える前に2025年ぐらいまでというのが非常に危ないという認識なのだと思うのです。この危ないというのは、秩序が極めて動揺するということです。そのために暴風に備えるような構えがあるのだという情勢認識が書き込まれてほしいと思います。

そうしますと、そのためにつながる相手とはつながっておかなければいけないということになるわけで、それが今、ネットワークになっていくわけですが、集団的自衛権云々も、適切な防衛力という言葉を使っておいでですが、適切な防衛力もよく考えると何のために適切な防衛力かと突っ込まれますと、ちょっとしどろもどろになりかねないわけですから、その点も含めて2025年までの情勢認識を極めて厳しく見ておくということがこの平和部会の中間報告でも必要ではないかと思うのです。

○部会長 ありがとうございます。

防衛、安全保障に余りフォーカスを置き過ぎるとちょっと性格が変わってしまうと正直思うのですが、おっしゃるような認識は私もこの部会の多くのメンバーの方も共有されているところだと思います。

ですから、書く比重は調整させていただきたいと思うのですが、基本認識は恐らく今、谷口委員がおっしゃっていただいたところは入れることができると思いますし、適切な防衛力といったようなことで確かに具体論に踏み込んでいないのですが、具体的に何かこの点でも既存の枠組みではない点で何かあればそれも入れることは考えたいと思います。ありがとうございます。

どうぞ。

○委員 まだ発言していないので。ややまとまりを悪くするかもしれないのですけれども、1つ問題提起として申し上げたいのは、かなり大きな将来ビジョンを出す課題を与えられているわけですが、その際に避けて通れないかもしれないのが、日本は現状認識として、あるいは将来の目標として、大国なのですか、あるいは大国でいることを目指すのですか、という問いかけです。逆に、小国になるしかないのか、もう小国として最適な将来像を今から考えて準備しなければいけないのかという問題は、恐らくどこかで一応クリアーにした形で書いた方がいいのではないかと思うのです。

これまでの議論では、当然趨勢から言うと、経済的に見ても、また軍事的に見ても大国ではいられないというか、大きめの国の中のワン・オブ・ゼムになることは明らかになっている。問題は、これまで世界2位の経済大国というような言い方をしながら、実はルールメイキングを余りやっていた。つまり、大国として普通備わっているようなことをやっていた。その間に大国の座を滑り落ちそうになる、そこでいろんな問題が生じているのだということだと思うのです。

こういった状況下で、過去にはいきなり小国論がよく出てくるきたわけです。日本は小

国だとか、小国でいい。私がそこに与するわけではない。それでもかなり大きい国なのは確かです。にもかかわらず超大国ではないし、小国だと言ってみたところで他人はそういうふうには見ていない。では中ぐらい、適切な大きさに自己認識をして、それにふさわしい能力を備えるには何をすればいいのか。これまでこういった面でいろいろできていないことがありますという、それを示すのが役割なのではないかなと思います。

○部会長 ありがとうございます。

今のご意見に関連するのは、キャッチフレーズみたいなものが恥ずかしながら私は非常に苦手なので、余りキャッチーなコピーというのは考えられないのですが、特に平和国際的な観点から見たときに 2050 年の日本が目指すべきものはこれまでルールメーカーとか、平和創造国家というのは私も関わった防衛と安全保障の懇談会でつくった言葉で、そんなに築かれてはないと思うのですが一応使われた言葉なのです。もうちょっとそれこそ的確な表現があればもっといいのはそれに越したことがないので、その点も御意見があれば何かクリアーに目指すべきイメージ、日本を表現するのでもいいし、日本が持つべき力であるとか、性格であるとか、役割であるとか、そういうものでもいいと思うのですが、その辺りもブレインストーミングということになるかと思いますが、御示唆いただければ助かります。

これは後でも付け加え可能だと思いますので、また思い付いたときに私なり事務局なりにアドバイスをしていただければいいかなと思うのですが、今、何かその点でございませうか。

○委員 全然素人なので素人考えでしかなくて、それが何であり、**what** で **how** なのかと問われると答えにくいのですけれども、例えば日本として行うルールメイキングとして、まことしやかに世の中にいろいろなものを流通させて、それを使わないと物事が成立していかないと、例えば **Apple** がやったような、あれは世界をすごく大きく動かしたことはないかと思うのです。

国連だとか常任理事国入りだとか高いハードルを設定してしまうとなかなか難しいことが現実問題としてあるのだらうと思うので、ゆでガエル作戦といいますか、まことしやかに世界に浸透していくような、そういう戦略があってもいいのかなというのを先ほどから感じつつ、でもそれが何ですかと言われるとちょっと困るなというところなので、そこは叡智にお任せなのかもしれませんが、意見として。

○部会長 それこそ戦後日本は世界にある種の浸透性は持っていて、20 世紀最大の最高の発明はインスタントラーメンとウォークマンなども恐らく割とインパクトがあっただらうと思うのです。だから、そういうものはつくってきて、それが特に製造業とか経済の面ではかつてほどインパクトがあるものをつくれなくなってきているというのが今の問題だと思うのですが、そういうものを復活させるということなのですか。それとも別の分野でということなのか、その辺りはいかがでしょうか。

○委員 それが平和にどう貢献できるかというところが私にも具体的なアイデアがあるわ

けではないのですが、既存のものに余りとられるのではなくて、何か世界の人たちがそれを使わないと今後安定的に人権が守られないよねというような発想に立てるようなものをつくり上げていくとか、本当に今具体的に案があるわけではなくて申し上げていて申し訳ないのですけれども、少しパワーを使ったルールメイクと、本当にまことしやかにやっていく、そういったルールメイクという双方の考え方があってもいいのかなというこの提案です。

○部会長 ありがとうございます。

どうぞ。

○部会長代理 ずっとお話を伺っているながら、結局ルールメイキングはどういうことかなと考えていました。恐らく1つは、広い意味での国際公共財というものを提供できるかどうかという話があって、多分それはこれからの国力のことを考えると日本だけでやるのは無理なわけです。そうすると、他の大国、同じような考えを持つ国々と協力しながらそうした公共財を提供するということが1つあって、その背景には、恐らくハードパワーというのに関わってくる。もう一つの違う側面があって、それは例えばファンクショナルな部分において、どのような具体的な規範やルールというのを提示して、そこで交渉を調整しまとめ上げ、し、あるいは知的な科学的な知識でもいいですけれども、そういったものを提供していくのかという面です。

今のご意見はもう少し広いもので、思考方法や行動様式を変えていくようなものという面もある。幾つかのパターンがあり、日本が中心になってできるもの、大国ど協力しなければいけないもの、三点目のように政府というよりももっと民間部門が関わってくるようなものとか、そんな感じなのかなという気がしていました。

もう一つ、違う観点になってしまうのですけれども、こうしたルールメイキング等で日本がやっていくとして、日本の美徳なのかもしれないのですけれども、今まで余りうまくやってこなかったのは、いかに自分がやっていることを有効にアピールするか、世界にわかしてもらおうかということところです。実際はやっているけれども、こういうのは人知れず分かる人だけにわかってもらえばよいのですよ、という話をよく担当者から聞くことがあるのです。けれども、それでは「もったいない」ので、いかに功績を伝えていくのかというPRの部分というのももう少し考えてもいいのかなという気がしています。

○部会長 特に最後のPRは全く同感ですけれども、なかなかこれは言うは易く行うは難しで、我が身を振り返って思うのですけれども、大体国際会議などに行っても、会議で発言しないといけないときは発言しますけれども、それ以外の休み時間にどんどん積極的に外国の人と話をしようという気力がなかなか湧かないのです。それでは私のやる商売ではいけないのでしょうかけれども、そういう気性でない自己PRにならないのだろうと思うのです。だから、その辺もこういうことを担当していながら恐縮ですけれども、実際にはなかなか難しいなというのが単なる感想です。だから、その辺を変えていかなければいけないということを書くのは大いに結構だと思いますので、書きたいと思います。

どうぞ。

○委員 私も同じことで重複になるのですけれども、そういう社交力はどうすれば身に付くのかよくわからないけれども、例えば子どものときから学校の間で交流するとか、そういうことをやるべきなのではないかなと思っています。

例えば大学にしましても、中国の大学によく日本の学生を連れて行って交流させるのだけれども、向こうはちゃんと交流のための部屋があって、交流ということが教育の中の重要な部分であるかのような感じなのです。向こうの子どもたちは非常に社交的ですし、そういう力の差というのは非常に強く感じさせるのです。これを何とかしなければならぬ。

やはり日本社会は、実はこれからの世界にとって、必要ないろんな価値がたくさん詰まっている社会だと思うのです。例えばもったいないという言葉が出ましたけれども、例のマータイさんが感動してくれた価値にしましても、あるいは和とか共生とかということにしましても、いろんなほころびもあるし、問題も多々ありますけれども、それでも日本の社会のことを知る外国の人からすれば、目を見開かされるような価値というのはたくさんあると思います。それをどうやって言葉にして、あるいは形にしてアピールしていくのかということはどうしても考えた方がいいことではないかと思います。

○部会長 ありがとうございます。

非常にミクロな部分で日本社会の持っている価値観というのは、以前、実務の研修は日本が非常に国際的に評価されているということがあったと思いますけれども、セオライズして学校で教わるということにすると恐らく日本よりうまくやる国はあるのですけれども、現実実践の場で先輩がこうやっていてそれを見て学ぶというところで技術もあるし、価値観みたいなものがある、そういうところは日本が非常に優れているところがある、そのことと日本社会の持っている価値観で世界的に意味のある、これからもっと世界で共有されたことで世界にとってもいいものはたくさんあるというところにつながる場所があると思います。それを方法論としてある程度こういうことをやっていった方がいいという形で何かうまく整理できればいいなと思うのです。

それがミクロの点で、もう一つ、今日まだ十分に話ができているかもしれないと思う点は、いわゆる地域の統合とか国としてのアイデンティティを薄める、あるいは交流を強化するという側面です。勿論、経済でプルの世界を強める、そういう形でルールをつくるということもあると思うのですが、それと同時に日本のアイデンティティというものをどうしていくのかということもあると思うのです。言い方が余りうまくないと思うのですが、そういう側面についてはどうでしょうか。

目標として地域的共同体を形成して、そこに日本もほかの国も埋め込んでいくというのがいいのか、別の生き方、やはりアイデンティティというものを重視していくのかというのは、これも永遠の課題ではあると思うのですが、1つのテーマになり得ると思うので、そういったミクロの部分とある種のビジョンの部分と、いずれも何か御意見いただけないでしょうか。

地域共同体をつくるということを目標として掲げるのがいいかどうかということですが、いかがでしょうか。自由に、あとしばらくお時間がありますので。

どうぞ。

○委員 前回申し上げたことの繰り返しになるのですが、ミクロのレベルの経済的な結び付きで自然発生的に深まっているサプライチェーンの集合体のようなネットワークは、放っておいても伸びるであろうと。そういうものと、何か自ら主体的につくっていく地域共同体とは分けて考えてほしい、これが私の出発点として、2050年に地域共同体というものを理念として掲げればよいというなら、それには条件が要る。リベラルデモクラティックで、オープンで、ルールバイディングなどという条件をつけたうえ、それを満たす地域共同体というものをつくるべきだと掲げるなら、それは掲げて結構と、そんなふうに解釈したのです。

ですから、東アジア共同体というものにも、私としても今3つぐらい挙げたリベラルデモクラティックで、ルールバイディングで、オープンでというようなものが付くならばその限りにおいては賛成です。

○部会長 どうぞ。

○委員 私もそれは賛成です。やはりこの地域の特色は、大きな国と小さな国の差が非常に大きいのです。そういう地域であるだけに、自由、平等、友愛ですけれども、そうした民主主義の価値原理が実現される形での地域の共同体づくりをみんなで目指すのだということをはっきりさせておくということが大事だと思います。

○部会長 どうぞ。

○委員 地域共同体と言ったときに何をイメージするかというときに一番わかりやすいのはヨーロッパだと思うのですが、ヨーロッパは逆に言うとリベラルデモクラティックであるとか、ルールバイディングであるというのは、共同体より先にある価値なのです。ですから、基本的には既に存在している共通価値が存在し、経済共同体としてつくり上げられたものがその上に乗っかっているという格好になっているので、アジアのように、そうした共通価値をこれからつくるといふのと訳が違うと思います。例外的にギリシャとかはルールバイディングではないので問題が起りましたが、その辺は置いておいたとしても、一般的にはそういうふうに見えると思うのです。冷戦が崩壊して東の国々が入ってきたときも、やはり共通するヨーロッパの価値というのは、彼らは中世以来、キリスト教ですとか、かつて民主主義をやったというような経験に基づいてヨーロッパへの復帰ということで入ってきたので、そういう観点からすると、これから新しくそういう価値をこの共同体で創造するということになると、かなりしんどいだろうと思います。もう一つは、ヨーロッパというのはよきにしろ悪きにしろ、国家主権という概念が古くからあるところで、国家主権による戦争や対立に疲れていた国、地域なのだと思うのです。ところが、アジアというのは、ある意味では植民地から独立した国が多くあって、まだ自分たちで物事を決めたいと思っている若い国がたくさんあるわけで、そういう中で共同体となると、や

はり自分たちのやりたいようにやりたいという国も数多くあるだろうと思います。

そういう意味では、私もミクロなレベルでつながっていくというのは市場の原理で勝手に進んでいく話であって、そこに加えて新しく目標として地域共同体というのをつくるというのは、いいのでしょうけれども、価値観の問題まで含むと相当大変だと思います。歴史上、地域共同体をつくってほかの国をリベラルでデモクラティックに変えたという経験は多分ないので、その難しさは並大抵ではないと思います。

○部会長 いかがでしょうか。

どうぞ。

○委員 それぞれの国の中を変えるのはなかなか難しいのです。ですけれども、とりあえずそれらの国々の集合体としての共同体ですから、その国の間では民主主義的なルールで物事を決めたり運営したりするというようなイメージなのです。デモクラシーとか、自由だの平等だのというような西洋発祥の概念を使うということに抵抗を感じる向きもあるかもしれません。なので、それは言い換えもあり得ると思うのです。何か私たちの持っている言葉で同じ内容に言い換えるということもあるかな。それが前回申した、例えば和と共生とかというようなことだったのですけれども、もっといいアイデアがあろうかと思いません。

○部会長 どうぞ。

○委員 私の言っているイメージというのは、それぞれの国が、すなわち国内においてもとリベラルでデモクラティックな仲間同士が、集まるという感じです。単に集まった中での仕切り方、運営方法がデモクラティックかどうかよりも、集まる人たちがもともとそうだというものでないといけない。そうすると、共同体なるものの実現は多分相当難しいということになると思います。

○部会長 どうぞ。

○委員 私、麻生政権以来延々とやっている日韓新時代共同研究という研究の第1期が終わったところなのですけれども、その中で韓国側から提起されてきたものとして、地域共同体の定義として、ファンクショナルな共通目的を持った開放性のある集まりとかというのがあって、共同体の1つの原理というのは、共同体の外から来る脅威に対して共通して立ち向かわなければならないというものです。東アジアの経済統合の議論が始まった最初というのは、ドルレジームの軋轢があって、みんな通貨危機になって非常に苦しんで、アメリカは1ドルも出さなかったというところから来ているわけです。

そういう地域共通の何かというのがずっとあって、例えば人口の密集地帯ですから、これからまた疫病との闘いとか、新型インフルエンザとか、延々と多分闘うのです。気候変動とか都市化とか、環境とか、こんなのはずっとやっていくと思うので、そういうファンクショナルな共同体というのは、あと災害も増えていますので災害とか、こういうのは当然あると思いますし、そのときは近いということが圧倒的な重要性を持つのです。すぐ来られる。あたかも隣の国ですから他人事ではないように思えるというのは非常に重要な

ので、その中にもある程度開放性を持っていくというのは現実的かなと思います。

○部会長 ありがとうございます。

何となく相場観みたいなのは今の御意見であるような気がします。これは詰めた話をしてもなかなかきっちりアジェンダとしてこういうものというのとはできない話だと思いますので、その辺の相場観を表現するというにとりあえずしたいと思いますが、よろしいでしょうか。何か特に更に付け加える御意見はありますでしょうか。

どうぞ。

○委員 今のファンクショナルというのは、つまり分野ごとということなのですか。いろいろ災害とか環境とかということなのですね。そうすると、もしかするとその中で分野のものが広がってつながったりすることも、昔ヨーロッパとそれこそ石油、石炭でどんどん広がっていたとかそういうのはあると思うので、それがアジアに通用するとは思えないところもありますけれども、やはりつながりを持っていると攻撃しにくいというのもあって、米中が今余り対立できないのは経済で関係があるからなわけで、いろんな関係があると対立に発展しないで摩擦程度で済むかもしれないということもある。紛争とか対立とかまでいかないで摩擦になる程度で終わるかもしれないので、そういう意味でも分野ごとに全部がまとまって EU みたいな形ではないですけども、分野ごとのいろんな地域の枠組みができるというのは、その中に分野によっては中国も確かに入っていたりとか、そういうのがたくさん生まれるのは望ましいことだと思います。

○部会長 どうぞ。

○部会長代理 国家間のルールの話ですけども、それは例えば以前、東西のヨーロッパでありましたコード・オブ・コンダクトのような、相互の内政不干渉とか、国家間の行動原則みたいなものを改めて明示化していくとか、そういう話とはかかわるのでしょうか。

○委員 実は、私は余り真面目でないものですから、自然にできていくものではないかと思っていますのです。何か目標を立てて、2050年までにはこれをつくらなければならないから、では2030年までにはこれをして2020年までにはこれをしてとか、最終形はこういう形でというようなのではなくて、そういったネットワークやらフレームワークやらの重なりが自然とアイデンティティを形成していくだろうと思っていますのです。

しかし、そうやって自然とできていったものの規範というか、これは考えておかないといけないと思うのです。そうやって1個1個のフレームワークやら何やらについては個々に具体的なルールが必要ですから、それはデモクラティックな原理に基づいて1個1個をつくっていく。そうすると、最後はみんなアイデンティティもできてきて、地域共同体と呼べるものをそろそろ何か形にしましょうかといったときに、今、おっしゃったようなものができてくるのではないかというイメージなのです。

やはり日本の人は非常に真面目なので、何かここでも地域共同体とつくりましょうと思ったら、ではどうするのとすぐ考える人が多いと思うのです。そうではないのだというのが私自身の個人的な考え方なのです。

○部会長 ありがとうございます。

勿論、ニュアンスの違いはあるかもしれないですけども、大体制と共同体というようなお話でもお考えのところが近いような気がしますので、うまくそれを表現するように努めたいと思います。

大分時間がなくなってきましたので、もし座長、何か御発言があれば。

○分科会座長 ルールメイキングということについて非常に熱心に意見交換していただいて、これを提起した御本人も非常に喜んでいるのではないかと思います。

特に平和とルールメイキングは私の感覚からも非常に関係があって、どこでもルールが決まっています、それにのっかってお互いが行動していればそう紛争は起きないということだろうと思います。

1つだけ感想みたいな話ですけども、あえて言えば武士のルールと商人のルールというのがあって、今日、議論されていたのは、どちらかというところと武士のルールということも意識されていたのかなど。安全保障に関わるものとか、かなり理念的な国際的な枠組みを決めると。ただ、日本がこれまで得意としてきたのはそちらではなくて商人のルール。戦後、特にそれをずっと追求。それなりの成果を上げてきて、実を取ってきた。つまり、いろんなルールが決められても日本製品がそこの中で工業製品が売られて、それなりの外貨を獲得してきたという意味では利益を上げてきたのだろうと思うのです。

だから、そういう点ではそれぞれの国の持っている得意な分野を国際的にも発展させていくために国際的なルールのイニシアティブをとってつくっていった目的を達成するというパターンが1つあって、それが日本の場合にはこれまで工業とか商業とかそういう分野であったのだろうと。

それはそれで得意な分野である程度あり続けるでしょうから、そういう通商的なルールのイニシアティブをとってやっていくということは必要なのかなと思います。その議論も少し加えていただくといいのかなと思いますが、その上で特にアジアに焦点が移ってきて、政治的な意味で不安定要因を抱えているという意味なので、武士のルールでどういう役割を果たせるのかということも問われている。なかなか難しいところですけども、そこに少し踏み込んで書くことができると、ある意味では安心して日本人が2050年まで暮らせるという感じが出てくるのかなと、是非そこを期待したいと思います。

○部会長 ありがとうございます。やはりなかなか難しいと思いますけれども、皆さんのお力で何とかうまくまとめたいと思います。

事務局長、何かありますか。

○事務局長 大変いい議論をしていただいたのだと思います。あと何か抽象度の高いものができそうな雰囲気もあって、ただ、報告書的に言えば例示的なものでも構わないと思うのですが、具体性のあるものも書いていただけたらインパクトが出てくるのかなと思いました。

また、国内における問題を外側から解決を見てそれをどう解決していくかというところ

に対しての示唆もあったら、とてもインパクトがあるというか、今までにないようなものではないのかなと思いました。

以上です。

○部会長 ありがとうございます。

これもなかなか難しいことをおっしゃられると思いますけれども、できる範囲で考えたいと思います。

先ほど御案内のとおり、中間報告を書かないとらないのですけれども、私もやりますけれども、恐らく何人かの方にはお手伝いをいただいた方がいものができると思いますので、何人かの委員にちょっと手伝っていただいて、プロシージャーはそれぞれ書いていただいたものを集めて、私の方で一応まとめて事務局に出しまして、皆さんにもその段階での原稿ということでお送りしたいと思います。

20日に次の部会が設定されていますので、そのときに改めて中身について御議論をいただいて、修正が必要なものはその後に修正して、23日ぐらい、次の週の初めぐらいには一応現段階での部会としての中間報告としてまとめるということで、その後は大西座長、永久事務局長の方でよしなにしていただけるとのことだと思いますので、その後、5月以降の部会の日程等については、また改めて事務局の方で設定していただくということになりますね。

ですから、大変皆さんお忙しい中、熱心に御参加いただいて改めて感謝申し上げます。一応割と報告の形としてはでき上がってくる段階になりましたので、あとしばらくお付き合いをいただいて、是非今後ともよろしく願いますということで本日の部会の方は散会にしたいと思います。

本日も非常に熱心な御議論ありがとうございました。これにて本日の部会を終わりにしたいと思います。